

と も か り き

～ 思いやり 心でふれあい 支え合い ～

発行 日野町人権啓発推進連絡協議会
日野町教育委員会事務局内 TEL 52-6566



[発行日]
2026年7月31日



令和8年度

日野町人権啓発推進連絡協議会総会を

開催しました

日野町人権啓発推進連絡協議会の令和8年度総会を、6月25日(木)日野町林業センターホールで開催しました。加納新会長から「個人それぞれの幸せがあることを認識し、人権と福祉のまちづくり」に基づく人権啓発活動を各地域で一体となって進めていきたい」と就任の挨拶があり、各地区人権協等との情報交換を行い、地区別懇談会や研修会を推進することで学習の輪を広げ、人権が尊重されるまちづくりに取り組んでいくことを令和8年度の

活動方針とすることで確認しました。事業計画や予算など提案した議案はすべて満場一致で承認されました。各地区から取り組みについて報告があった後、質疑応答の時間を設けました。必佐地区が視察した「伊勢市防災センター」のことや、人権部会をほかの部会と統合することで人権啓発活動にどのような影響が出るのかなど、各地区同士での交流が活発に行われました。

各地区人権協だより

ほっとスマイル鎌掛

ほっとスマイル鎌掛(鎌掛地区人権啓発推進協議会)は、「人権尊重と住みよい社会の実現のため、人権教育を総合的に推進すること」を目的として活動を実施しています。

令和7年度事業は、計画していた「各区(6区)の字別懇談会」「文化祭でのほっとスマイル講演会」などの事業をほぼ実施することができました。

また、複数年に渡って実施してきた「おもいやり標語の募集」では、地域の方々から多くの作品を出品していただきました。この「標語の募集」活動は令和7年度をもって、いったん区切りをつけることとしました。令和7年度は応募された25点の標語を文化祭で出品して皆さんに興味・関心のあ

令和8年度 日野町人権推協役員

会長	加納 治夫
副会長	杉本 重剛
幹事	岡崎 正利
幹事	岡崎 正清
事務局長	木村 浩
監事	岡本 久志
監事	竹村 孝幸

る標語を複数選んでいただき、4点の作品は地区の2か所にある大看板に新たに掲示しました。地区の幹線道路に設置していますので、日々の通行で目にしていただき、長く啓発活動に活かされることを願っています。

令和8年度は5月に第1回役員総会を開催しました。昨年度までの学習部と啓発部の二部制を廃止して全活動を一元化して効率的に実施することです承を得ました。今年度の事業活動は「各区（6区）の字別懇談会」「地域住民講座に学ぶ（4回の講座）」「今までの標語を活かした活動」「ほっとスマイル講演会」などの事業計画をもとに進めていきます。

今後も効果的な活動を地域にあった



正法寺前看板



かやの森前看板



3年程前から小学校の登校ボランティアに参加させてもらい、地域の子とも達に同行して学校まで登校しています。その中で子ども達と世間話をしたり、悪ふざけをすれば注意したりしながら

近年、職場や学校だけでなく、地域活動や日常生活の中でも「ハラスメント」が大きな社会問題となっています。御存知のとおりハラスメントとは、相手を傷つけたり、不快な思いをさせたりする言動のことです。本人に悪気がなくとも、受け取る側が苦痛を感じればハラスメントとなる場合があります。

ふれあい推進協議会（南比都佐）

（野嵜 重美）

やり方で進められるようさらに検討していき、「人権尊重と住みよい社会の実現のため、人権教育を総合的に推進する」活動を身近なところから進めて参ります。

登校しているのですが、いまでは子ども達の名前を覚えられ、子ども達も〇〇のおじいちゃんと覚えてくれるようになりました。登校中には個人情報に抵触するような会話や「バカやなあ」というようなハラスメントになるような言葉もでてきて「はつ」とすることがありますが、日頃から会話をしている子ども達にはハラスメントと感じていないと思います。

普段会話をしていない子どもに「ばかやなあ」といえば相手に不快な思いをさせてしまうと思います。

高齢化社会、少子化社会をむかえ、また個人の考え方も多様化する中で、これからはますます地域のふれあい・絆が希薄になりがちですが、地域の方との会話を通じたつながりは人と人との理解を深めることとなります。

一人ひとりの価値観やプライバシーを尊重し、思いやりのある地域づくりをすすめることが大切だと思います。

（木村 薫）

ふあみりお必佐

必佐地区まちづくりネットワーク（愛称..ふあみりお必佐）は各字から選出されたまちづくり委員31名と役員で日々の活動を行っています。今年度も5月15日に総会を開催し、令和8年度の活動方針が承認され事業を進めています。

私たちは、愛称のとおり人権と福祉のまちづくりは、「家族のように会えばホッと安心でき助け合うことができる」そのような地域づくりができたなら良いのではと考えています。



令和7年度の人権啓発活動は、委員研修、文化講演会、視察研修と必佐地区の他団体と連携しながら開催しました。文化講演会では、これからの人と人とのつながり、日ごろの見守りや災害の対応などを学びました。防災をテーマにして三重県伊勢市防災センターで視察研修を行い、施設での体験学習をしました。また、帰りのバス内では研修についての感想を話し、交流することにより深い研修・学習ができました。

もう一つ活動の大きな柱である「字別懇談会」への取り組みは、今年も6月17日「模擬字懇」を開催し、まちづくり委員に具体的な字懇の進め方、グループ討議の方法などを体験していただき、各字での推進を図りました。令和7年度も複数の字で取り組みをいただきましたが、少しでも取り組みが増えるよう、気軽に実施していただける体制づくりも検討しています。

（望主 昭久）